

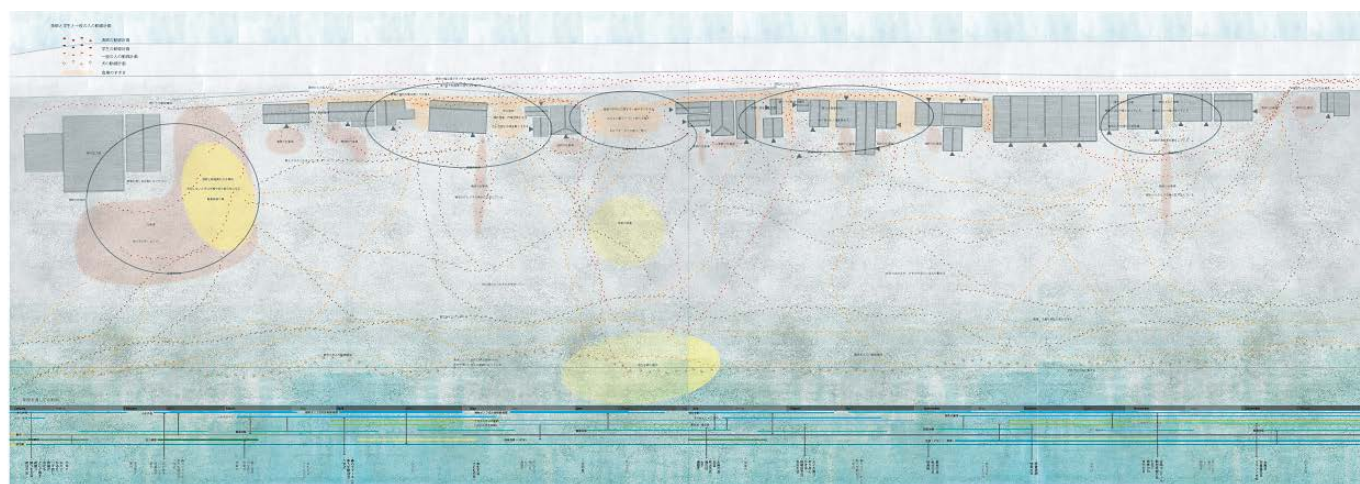
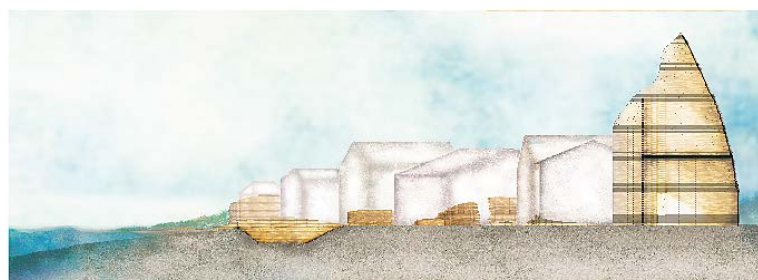
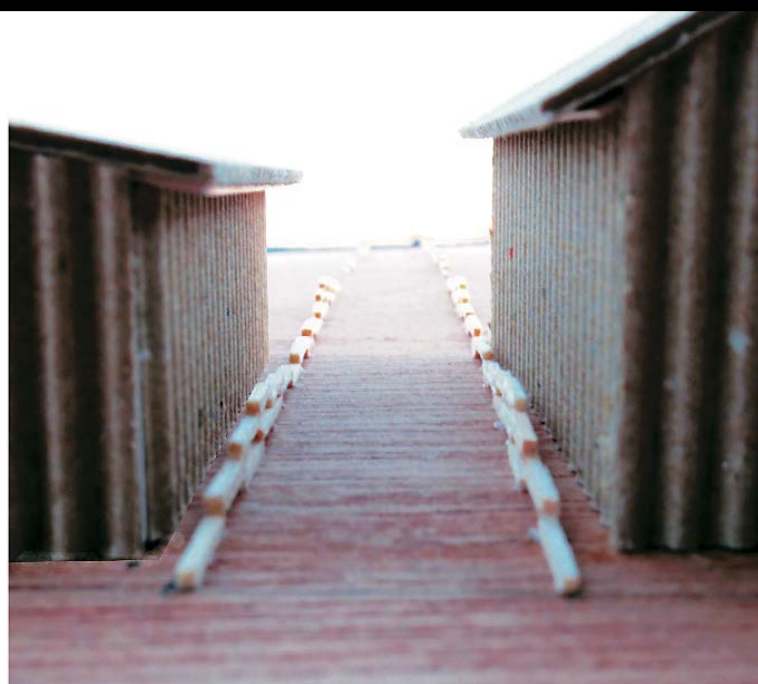
名城大学建築同窓会会報

●発行/2013年4月1日 ●編集/名城大学建築同窓会会報委員会

No.141

INDEX

会長・学科長あいさつ	1・2
新春情報交換会	3
支部だより	4
協賛金・寄付金ご報告	3・4
建築学科教職員	5
建築同窓会賞	5
キャンパスニュース	5
就職情報	6
平成23年度事業報告	7
平成23年度決算報告	7
平成23年度会計報告	7
平成24年度事業計画	8
平成24年度予算	8
会則	9
表紙・裏表紙解説	10
平成23・24年度役員	10





建築同窓会会長

小木曾 森司

(昭和48年卒)

今年は、建築同窓会が昭和38年9月に発足してから50年の節目を迎え、我が校も創立80周年を過ぎ、建築学科も昭和22年に名古屋専門学校応用物理学科建築分科として発足して以来65周年を迎える事となります。大学当局及び諸先輩を始めとする会員各位の長きに亘る御協力の賜物と篤くお礼申し上げます。又、会員の皆様方には、混沌とした社会情勢の中にもかかわらず、各地域、各界各層において貢献され、活躍ぶりを耳にするにつけても、心強く、又、励みとしているところであります。

建築学科同窓生は在籍の学生会員も加えると1万2千名目前となり、この大勢の同窓会員の皆様が50年の歩みを支え今日を迎えた訳であります。

同窓会の歩みを知るうえでは、毎年会員の方々にお送りしているこの会報の発刊があります。今年で41版目となり、表紙の故中田武教授の題字は、これからも同窓会活動に力を与えて下さるものと思います。

今回の周年記念事業の一環として、18回を迎える新春の情報交換会の中で「65／50」と銘打ち記念式典を開催、この同窓会が「会員相互の情報交換・交流の場」として「地域社会に貢献できる会」として発展継承されていくためにも努力する必要性を再認識したところであります。又、地域を主体としたネットワークの支部活動も15年を超え、更なる発展を遂げるべく活動して頂いております。

新企画として、学科の先生方と在学生、修了生や新旧卒業生の皆様の参加を得て天白キャンパスで開催する「大交流会」は、学科と同窓会、学生と実務社会人等「タテ・ヨコの絆」の始まりとなればと、期待するところであります。

また、例年の6月の総会にあわせて、新しく竣工を迎え、建築科の皆さんが利用する建物の「施設見学会」の開催を計画しております。多くの方の参加を期待します。

末尾に成りましたが、記念事業への協賛やご寄附をいただいた皆様、記念誌への広告掲載や御寄稿をいただいた各位、並びにご尽力いただきました同窓会関係の方々に篤くお礼申し上げます。

同窓会関係各位の皆様方のご多幸を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

平成25年2月吉日



建築学科長

武藤 厚

名城大学・理工学部・建築学科の卒業生・在校生を始め、ご関係の皆様におかれましては、日々ご活躍の事とお喜び申し上げます。とりわけ、建築同窓会は本年で発足後50年の節目を迎えられ、お祝い申し上げます。また日頃から当学科の種々の活動に対し、ご理解とご協力を頂き、この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、近年の学科を取り巻く状況について、我々教学側スタッフからいくつか報告させていただきます。まず、本年度末には建築学科の研究室・製図室・実験室等の全ての施設が新研究実験棟Ⅱに移転になり、現在、鋭意新年度からの運用開始に向け奔走しております。キャンパスの中でも地下鉄から一番近いロケーションの新校舎でのスタートとなります。次いで①入試関係ですが、平成25年度の入学生からは新入生全員が学科確定で入学する方式と変更になりました。これに併せ1年次から専門教育がスタートしますが、同時に各専門分野の基礎的な科目を必修とすることにより、近年の学生のスタイルを考慮しつつ、実効のある教育を目指します。勿論、アドバンスな科目も十分に用意し、学生の希望に併せたメニューを同時に設定しています。次に②平成16年度から理工学部全体で進めているJABEE(日本技術者教育認定機構)の受審ですが、建築学科では平成18年度に新規審査、平成20年度に中間審査、平成23年度には継続審査を受審し、無事認証を得ております。この件に関しましては、学内の関連部署のみならず、外部評価等に関しては直接OBの皆様のご協力も頂いており、この場を借りて謝意を表すと共に今後のご協力をお願い致します。このJABEEを始め、教育・研究活動の一層の活性化には学科全体で日々取り組んでおり、この成果の一例として、卒業生の一級建築士合格者数が中部地方の私立大学ではトップを維持していることにも現れていると思われます(全国の大学の中でも本年度は10位;国土交通省による)。さて、この一級建築士の受験資格につきましても既ご承知のことと存じますが、現在、在学中の所定の単位の取得に加え、一定の実務経験年数を要することとなっており、これは学生個人毎の在学中の情報に基づきます。関連して、大学院の実務経験年数の認定に関しても、「実践インターンシップ」の単位取得が条件となっております。現在、殆どの大学院生は1年の実務経験年数の算入を目標に、日々の学習・研究に励みながら1年次の夏季休暇等にインターンシップを経験することになります。このインターンシップの実施については、建築同窓会の皆様方にも、大学院生のインターンシップの受け入れについて、是非ご協力をお願いする次第です。インターンシップにも関連しますが、近年、大きく様変わりしたことに③就職関連が挙げられます。建築学科でも、社会全体の就職活動のスタイルの変化や就職難の波を受けながら、何とか高い内定率を確保しておりますが、今後、新たな就職先の開拓等にも尽力して参る所存ですので、引き続き関連の皆様の様々なお支援をお願いしたいところです。我々教学スタッフとしては、学生が浮足立つ事無く、学生時代の十分な「自分作り」を支援して参りたいと考えております。

最後に建築学科の教職員スタッフの話題について触れておきます。本年度末には、計画・設計系では生田先生が育児休暇から復帰され、構造系の太塚先生が在外研究から復帰され、これで教育・研究スタッフが全員顔を揃えることになります。

末尾となりましたが、同窓会を始めとする本学建築学科にご関係の皆様方の今後のますますのご発展とご健康を祈念し、学科長の挨拶とさせていただきます。

第18回新春情報交換会 [経済交流委員会]

本年の「第18回新春情報交換会」は、同窓会の50周年を記念し、その記念式典として平成25年1月18日(金)に盛大に開催されました。

参加者は178名でした。その内45名は招待させて頂いた大学関係者等で、また28名は同じく現役の学生です。この現役の学生を招待させて頂いたのは、今回が初めての試みです。

当日は、まず初めに例年恒例となっている卒業生を講師に招いた講演会が、開催されました。今年は設計事務所を主催されている、日比野満様をお迎えして、御講演を頂きました。

その後の懇親会では、多くのご来賓のご祝辞を頂きました。「学科斉唱」や「名城節」も含め、とても和気藹々と楽しい一時を過ごす事が出来ました。



▲理事長挨拶



▲副学長挨拶



▲学科長挨拶



▲同窓会長挨拶



▲理工学部長挨拶



▲校友会長挨拶



▲招待在校生と先生



▲谷田・吉永ゼミの仲間たち

協賛金・寄付金ご報告

建築学科設立65周年・建築同窓会設立50周年記念事業

会報140号で建築学科設立65周年および建築同窓会設立50周年記念事業に協賛金・寄付金の出損をお願いしたところ全国の会員のうち下記の皆様からのご援助がありました。

ご芳名を記載し、感謝にかえさせていただきますとともに、記念事業活動資金として有効に活用させていただきます。

なお、記念事業活動の資金としての協賛金・寄付金は随時受け付けております。よろしく願い申し上げます。

(ご芳名は平成24年12月末現在確認出来た方)

昭和29年	岡本 泰忠	昭和40年	西村 明
昭和34年	藤川 昌男		高橋 實
昭和35年	佐藤 正義		河村 彰雄
	小立 哲平		内田 満
昭和36年	川島 實(逝去)		岡村 哲治
	水谷 博	昭和41年	岩崎 征一
昭和38年	富枝 邦夫		河野 宗正
	小林 輝雄		荒川 建昭
	加藤 哲也		安藤 洋
	加藤 勝人		田賀 幸子
	荒牧 浩	昭和42年	山川 栄
	大橋 安太郎		渡辺 国浩
	畔柳 武司		加藤 晃

支部だより

『岐阜県支部』だより

岐阜県支部 支部長 水谷 武（昭和34年卒）

平成9年2月23日に岐阜県支部が設立され、今年で満17年になりました。今年は建築同窓会設立50周年・名城大学建築学科65周年にあたりいろいろな行事が開催されます。私事で恐縮ですが、私が卒業してすでに59年を経過しました。建築同窓会の各種行事への参加者名簿で常に上位に掲載されております。健康であることへの感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、当支部が毎年開催する定時総会や各種行事には、名城大学建築学科卒業の岐阜県出身者や在住者が集い、旧交を温めています。本県の建築分野における名城大学建築科卒業生の第一線の活躍は特に顕著でして、同窓生にとって誇りであると共に、我々卒業生相互間の情報交換等で何かとプラスになっていることと思われます。

今年も6月に定時総会を開催する予定です。建設業界にとって依然として厳しい状況下ですが、同じキャンパスで学んだ同士が顔を合わせることで、明日の仕事の糧とすることも可能かと存じます。一度もこれら支部の行事に参加したことのない卒業生の皆さんも今年こそ是非出席してみてください。きっとすばらしいお土産を持ち帰っていただけることでしょう。

連絡先は次の通りです。

支部長 水谷 武 TEL.0584-81-2343 (株式会社 大日組)
幹 事 小林輝雄 TEL.058-253-3111 (株式会社ユニオン)
会 計 下川康夫 TEL.058-251-1504 (株式会社 名康設計)

技術

城友会会長 丸澤 良彦（昭和52年卒）

最近、感動したお話を3点ほどさせていただきます。

1点目は、昨年10月8日、京都大学教授の山中伸弥教授がiPS細胞の発明で、ノーベル医学・生理学賞を受賞されました。iPS細胞とは、自分の皮膚の細胞と四つの遺伝子を培養することで、人体の一部の細胞が再生されるという、非常に画期的なものです。このiPS細胞の発明は、世界中の人々に、目から鱗の発明であったと思います。iPS細胞のiが小文字になっているのは、「iPod」携帯のように多くの人々に親しんでもらえる様にアップル社の「iPod」をまねて命名されたということです。

2点目は、「宇宙探査船はやぶさ」の映画を見ました。2003年5月、宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、地球から3億キロメートル離れた小惑星イトカワの表面の物質を採取し、地球に持って帰還するという世界で初めてのサンプルリターンを試みました。観測等は順調に行われましたが、小惑星イトカワへの着陸の不具合から、たびたびのトラブルに見舞われました。最も致命的であったのは、遠く離れた「はやぶさ」と通信途絶となったことです。無限の宇宙で超微小の「はやぶさ」を探すのは絶望的でありました。しかし、気の遠くなるような搜索作業で、奇跡的に「はやぶさ」を捕えることができました。絶対にあきらめないという関係者の気力が絶望を可能にしました。最後の帰還途中に見舞われたトラブルでは、四つあるエンジンの内、三つのエンジンが故障。たった一つ残ったエンジンで痛々しく地球に帰還するはやぶさを、私は自分の子供が傷を負い、命からがら我が家に帰ってくるような錯覚を覚え、涙が出て止まりませんでした。

3点目は、昨年5月22日に開業した東京スカイツリーの話です。奈良法隆寺の五重塔を参考に、タワーの中心に直径8メートル、高さ375メートルの鉄筋コンクリート造の心柱を設け、鉄塔の揺れをダンパーと共に制御する日本初の心柱制振構造が採用されました。また、2000年に一度の最大瞬間風速、毎秒110mの風にも倒壊しない耐風圧設計であることや、塔の転倒対策調査として地盤面下3キロメートルまで地盤調査を行ったこと等々、相当の調査と最新で最高の技術が投入されました。

近年、劣化したと言われる日本の状況下にあって、iPS細胞研究、宇宙開発事業、東京スカイツリーの建築技術等は、世界をリードしていますが、世界一でなければ通用しない厳しい国際社会があります。我々工学を志す者にとっては、技術の向上に日々研鑽し、さらなる日本の発展のために、勉学する使命があると思います。



同窓会ニュース

2013年、建築学科は65周年、同窓会は50周年を迎えました。そして、いよいよ研究実験棟Ⅱが供用開始され、6月には見学会も予定しております。建築同窓会は、今後も同窓生が広くつながる場を持続的に企画してまいりたいと考えておりますので、卒業生、在学生の積極的な参画、ご支援をお願い致します。

昭和43年	亀之内 親雄 鈴木 善徳 新井 武男 矢口 喜作 小野田 博志 道越 沙河雄 安井 一光 水口 忍 矢内 夏規 昭和44年 佐々木 貴司 加藤 大和 土田 幸紀 昭和45年 岩田 一夫	昭和46年	駒 山田 伊藤 平田 清水 沖中 昭和47年 石川 磯野 西尾 近藤 大井 水谷 昭和48年 小本曾 森司	昭和50年	浅野 順雄 山内 昇 河合 秀一 岡野 廣海 太田 隆久 若井 嗣雄 昭和51年 大河内 岸子 細瀬 滝雄 昭和52年 二宮 吉見 伊藤 時一 丸澤 良彦	昭和53年	山中 弘 松浦 隆幸 鈴木 千春 昭和54年 鈴木 他 昭和55年 松野 哲治 坪井 進悟 昭和56年 石川 悟 川崎 秀樹 大橋 裕一 立松 典泰 林 靖郎 昭和57年 渥美 喜己 赤尾 浩治	昭和58年	山田 山田 溝口 尚弘 桐山 宗久 加藤 千明 佐藤 勝己 武長 義典 北川 幹展(逝去) 昭和61年 石川 裕二 加藤 雄三 中島 一秀 昭和62年 山本 晃久 櫻井 美昭 昭和63年 河合 勝人	平成元年	磯谷 磯谷 新実 新実 梶 三宅 平成4年 三井 渡邊 平成5年 石井 坂上 平成6年 安井 友彦 田中 孝雄 平成7年 加藤 勝也 後藤 剛史 横田 浩二	平成8年	丹羽 敬彦 瀬川 輝紀 清水 康弘 平成11年 杉田 雅樹 平成20年 杉田 友里 平成22年 寺島 惇美 平成23年 加藤 歆大 匿名(4名)
-------	--	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	------	---	------	---

愛城会

名城大学建築同窓会
関東支部

建築学科教職員

○印は名城大学卒業生

教 授	建 築 計 画	鈴 木 博 志	准 教 授	建 築 構 造	大 塚 貴 弘
〃	建 築 計 画	高 井 宏 之	〃	環 境 計 画	岡 田 恭 明 ○
〃	建 築 構 造	立 川 剛	〃	建 築 計 画	谷 田 真 ○
〃	建 築 材 料	寺 西 浩 司	〃	建 築 材 料	平 岩 隆
〃	歴 史 意 匠	溝 口 明 則	〃	歴 史 意 匠	三 浦 彩 子 ○
〃	建 築 構 造	武 藤 厚	〃	建 築 構 造	宿 里 勝 信 ○
〃	建 築 構 造	村 田 賢 ○	〃	建 築 計 画	柳 沢 究
〃	環 境 計 画	吉 久 光 一	〃	環 境 計 画	吉 永 美 香
准 教 授	建 築 計 画	生 田 京 子			

建築同窓会賞

建築同窓会は、学部卒業生及び大学院修了生の優秀者に建築同窓会賞を贈り表彰しています。受賞者は、各研究室が表彰候補者を選出し、学科より同窓会に推薦して決定しました。下記の受賞者には、学位記授与式にて建築同窓会会長より表彰状を授与します。建築同窓会賞が、同窓会と学科の相互的な協力関係を深め、在学生の意欲と同窓意識の高揚に寄与することを期待するとともに、受賞者が各研究室の代表同窓会員として、新たな研鑽の場で活躍されることを期待します。

平成23年度受賞者

吉 田 周 平 (溝口研)	中 村 明 穂 (谷田研)	加 藤 諒 祐 (村田研)	永島啓慎+青木三華 (立川研)
井 藤 みなみ (三浦研)	上 村 志 穂 (吉久研)	舟 橋 和 毅 (大塚研)	中村雄一+田口哲也 (寺西研)
塩 井 健太郎 (高井研)	本 間 優奈子 (岡田研)	益 田 晃 宏 (武藤研)	西村 健+富山高行+船越恵美 (松井研)
釜 森 なつみ (安藤研)	尾 畑 宏 樹 (吉永研)		

キャンパスニュース

吉久光一教授が平成25年度より理工学部長に就任されます。

着任のご挨拶

准教授 宿里 勝信

平成24年4月から母校の建築学科構造系でお世話になっております。建設会社の設計部で構造設計の実務に従事しながら建築学科の非常勤講師を14年間担当させて頂きました。そしてこの度のご縁に深く感謝しております。学生に対しては構造設計の実務経験を活かした構造教育を心掛けたいと思います。大学で学ぶ理論と実際の設計や構造技術、施工技術等との脈絡が明確になれば学ぶことへの意欲もさらに向上するのではないかと考えます。また今日の社会においては大学と世間との関わりも重要であり、学外活動やゼミ活動等を通じてその役割を果たしていきたいと思います。今まで企業において多くの新入社員と接してきましたが、名城大学には優秀な学生が多いと感じています。学生の本分は、先達が残された膨大な知の遺産を学ぶことです。学生と共に学び、そして21世紀を担う若者が母校と建築の職能に誇りを持って、社会人としての第一歩を踏出せるよう微力ながら努力していきたいと思っています。

着任のご挨拶

准教授 柳 沢 究

はじめまして。昨年度より安藤洋先生の後任として着任しました柳沢です。横浜に生まれ育ち、大学以降は京都を拠点に活動し、このたび名古屋に移り住みました。初めての土地・環境・学生たちとの活動に、手探りながら心を躍らせています。

専門は建築計画と建築設計、特に設計実践と研究の両立を心がけています。設計面では京都に事務所を構え町家改修や住宅の設計業務を手掛けてきましたが、名城着任を機に設計の拠点も名古屋に移しました。心機一転まずは名古屋の街を知るために彼方此方を歩き回ることから始めています。研究面ではインドの都市・建築を対象とした研究を行なっています。ヒन्दゥー教の聖地ヴァーラーナシー(ベナレス)やデリー、マドゥライなどに滞在し、伝統的な都市空間や住宅の調査またインド型環境配慮住宅の提案に取り組んでいます。名城の先生方また学生達と共に、名城発で世界に発信していきたいと思っています。

就職情報

就職情報

就職委員 村田 賢

政権が替り、多少経済が良くなる方向に動いているようです。特に、公共事業は大幅に増加し、建築界でも企業の設備投資が活発となり、景気が上向くと思われます。しかしながら、前年度は不況の延長線上にあり、建設関連への就職は厳しい状況が続いていました。ただし、この状況は職域によって濃淡があるようです。総合建設業や住宅産業への就職は比較的容易ですが、設計事務所や構造事務所、官公庁などへの就職は大変厳しくなっています。競争が激しいため個人の能力や知識がより多く求められ、高学歴化に拍車がかかっています。一方、就職後数年で離職する学生が多くみられ、建設関連企業では約3割に達しています。原因は多様ですが、主としてその職種に対する能力不足や上司との人間関係の軋轢などが挙げられます。このようなことにならないためにも、日々能力向上と就職活動をおろそかにしないことと指導しています。不況を脱し、学生が希望する職種に就けるよう希望していますが、学生自身の建築に対する熱意や勉強意欲が年々低下していることが気になります。

平成24年度の就職活動開始は12月からとなり、企業説明会も少し遅くなりました。4月中旬頃までに複数回の就職試験、4月から連休明けの時期に合否決定というスケジュールが一般的です。総合建設業では大企業の就職スケジュールが最も早く、少し遅れて準大手、東海地方の企業となっています。東海地区の中堅企業では、夏休み明けでも求人を行っているところもあります。住宅産業は比較的広範囲の時期に就職試験が行われていますが、やはり、大企業の就職スケジュールが早いようです。就職活動を始めるにあたって、「リクナビ」や「マイナビ」に登録し、インターネットによる自由応募のエントリーが一般的になっています。大学に届く求人依頼には、「学校推薦のみ」「学校推薦と自由応募の並立」「自由応募のみ」の3種類のうちいずれかの方法を採用しています。近年、「自由応募」が増加する傾向にありますが、逆に、早期離職者に自由応募の学生が比較的多いことから、学校推薦を求める企業が増加しています。キャリアセンターでは、3年性を対象に「就職ガイダンス」「就職模擬試験」「求人情報」など多くの就職支援を行っています。建築学科でも今年度は企業と連携して建築に特化した就職セミナーを開催しています。就職活動開始後、キャリアセンターと学科就職委員が個人的な就職相談に応じており、幅広く学生の就職活動を支援します。

平成24年度の就職状況はここ数年の傾向とほぼ同じで、総合建設業が30%前後を占め、最多となっています。職種は施工管理・設備施工管理が主であり、スーパーゼネコンといわれる全国展開の大企業から、東海地区の中堅企業まで幅広く就職しています。今年度の求人も堅調で、多数の企業が大学を求人訪問しており、この職種を希望する学生には比較的就職しやすい状況となっています。住宅産業が25%前後で続いており、この産業の就職率も増加傾向となっています。近年、多数の学生が建築デザイン分野を希望していますが、設計事務所や企業内設計部の求人が少ないため、住宅産業を代替としているようです。設計事務所と官公庁は7%前後、建材メーカーなどが5%前後となっています。官公庁への就職希望者はここ数年増加傾向を示していますが、競争が厳しく就職者数の増加に至っていません。特に目立つのが、デザイン系設計事務所の求人が少ないことで、この業種への就職が難しくなっています。そのため大学院へ進学し、キャリアアップした後、設計系の就職先を希望する学生が増えています。しかし平成24年度卒業生の求人希望・意匠系設計事務所が5社ありましたが、いずれも応募者なしに終わっています。その原因はよく分かりませんが、将来に対する不安があるものと思われます。平成24年度の大学院進学率は他大学への進学を含めて13%となっています。特に、意匠系で進学する学生が目立っています。建築学科の全国的な進学率は50%に達しており、今後、進学率は増加していくことを期待しています。経済状況が多少好転しても、建築関連の就職状況が大きく変わることはないでしょう。

平成25年開催

建築学科
設立65周年
建築同窓会
設立50周年

12000名の卒業生の皆さん!!
ご参加をお願いします。

6月16日(日)

建築同窓会総会・見学会 (研究実験棟Ⅱ)

大交流会、建築同窓会総会・見学会は建築同窓会ホームページでご案内差し上げます。

50周年事業に年会費と共に、協賛金・寄付金をお願いします。
連絡先 meijokenchikudosokai@gmail.com

平成23年度事業報告

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

①総務委員会

- 学内行事の学位記授与式には学生会員に対して援助を実施しました。
- 会議の開催
通常総会 (6/19) 1回
役員会 (4/6、8/25、9/28、10/25、11/30、1/11、2/8、3/19) 8回
評議員会 (5/13) 1回
正副委員長会議 (4/27) 1回　開催しました。
- 慶弔に関する事務を取り行いました。
- 建築同窓会、周年事業への協力支援をしました。
- 卒業30周年ホームカミングディ(11/26) (昭和57年3月卒業) の支援をしました。
- 第17回新春情報交換会 (H24.1.20) への支援をしました。
- 評議員の充実
評議員のいない学年に対して、学内と協力し、働きかけをしました。

②財政委員会

- 平成23年10月 6日　年会費納入案内発送　平成22年度卒業生　135通
平成23年10月 6日　年会費納入案内発送　平成21年度卒業生　101通
平成23年10月11日　年会費納入案内発送　会員　503通
平成23年10月21日　第1回財政委員会(5名)
平成24年 1月19日　第2回財政委員会(5名)
＜一般会計＞　平成24年4月4日(水) 現在
- | | | | |
|------|------------|--------|------|
| 会　　費 | 4年生　33名 | 年会費　会員 | 207名 |
| | 3年生　12名 | 新規会員 | 34名 |
| | 2年生　28名 | 計 | 241名 |
| | 1年生　39名 | 寄付金　会員 | 28名 |
| | 22年度卒業生　6名 | 新会員 | 8名 |
| | 計　118名 | 計 | 36名 |
| | | 永年会員会費 | 7名 |

③事業・経済交流委員会

- [事業]
- 見学会の開催
平成23年4月　西部医療センター竣工見学会
 - 城球会ゴルフ大会へ補助金支給　10,000円
- [経済交流]
- 平成24年1月　17回新春情報交換会
参加者　147名　210,000円の黒字

④会報・名簿・IT委員会

- 建築同窓会会報(140号-A4版)を8,500部発行。
- 新会員に配布。会員6843人(前年7046人)に郵送。
- 保護者に配布。447部
- 名簿の追加、訂正。
- ホームページの修正。
- 同窓会のプライバシーポリシーを立ち上げ名簿の充実に努める。

平成23年度決算報告

	項目	予算額	決算額	備考
収入の部	学生会員会費	1,000,000	1,180,000	学生会員会費:118名¥10,000
	事　業　収　入	1,500,000	1,214,000	新春交換会(参加者147名+招待客)
	理工同窓会援助金	243,000	367,100	
	〃(学生会員援助金)	50,600		
	建築同窓会年会費	1,050,000	933,000	会員207名新規34名¥3000、永年7名¥30,000
	寄　付　金		169,000	寄付金36名・会員28名、新規会員8名
	会費寄付の振込手数料		-41,630	
	利子及び雑収入	10,000	675	利子(元帳+各委員会)・他
	合　　　計	3,853,600	3,822,145	増減額-31,455

	項目	予算額	予算内訳	決算額
支出の部	総務委員会	490,000	会議費	110,000
			慶弔費	100,000
			学科支援費	150,000
			運営費	30,000
				486,889
	財政委員会	170,000	入会案内郵送費	100,000
			振込票印刷費	40,000
			運営費	30,000
				160,434
	事業、 経済交流委員会	1,420,000	見学運営費	20,000
			経済交流運営費	1,400,000
				1,012,720
	会報、名簿、 I T 委 員 会	1,470,000	印刷費	800,000
			会報郵送費	590,000
			名簿調査作成費	50,000
			ホームページ作成費	20,000
			運営費	10,000
				3,857
	組織委員会	250,000	支部援助・設立準備費	210,000
			旅費	10,000
			運営費	30,000
	各委員会合計	3,800,000		208,860
				3,431,190
	残　　　金			368,810
	予　　備　　費	53,600		53,600
	今期収入増減額			-31,455
	合　　　計	3,853,600		3,822,145

財産の部	平成23年度期首財産(平成23年4月 1日)前年度繰越金	4,128,798	
	平成23年度期末財産(平成24年3月31日)前年度繰越金		
	周年事業積立金	1,000,000	
	活動準備金	3,643,753	4,643,753

平成23年度会計報告承諾

名城大学建築同窓会23年度(2012年)会計報告書を帳簿、領収書等により監査したところ適正であることを認めます。

2012年(平成24年5月22日)

監　事　佐藤　正義

監　事　亀之内親雄

平成24年度事業計画

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

①総務委員会

事業計画(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

- 1) 学内行事の学位記授与式には学生会員に対して援助を実施する。
- 2) 会議の開催
- ・通常総会 平成24年6月17日(日) 午前9:00受付 午前9:30～10:20
名城大学天白キャンパス共通講義棟南館S504教室
 - ・役員会 7～8回 第1回 4月9日(月) サテライト
 - ・評議員会 1～2回 ・正副会長会議 1～2回
 - ・総務委員会 1～2回
- 3) 慶弔に関する事務
- 4) 建築同窓会、周年事業への協力支援
- 5) 卒業30周年ホームカミングディ(昭和58年3月卒業)の支援
- 6) 第18回新春情報交換会(H25.1.18)への支援
- 7) 65/50(H25.3月頃)への支援
- 8) 評議員の充実
- 評議員のいない学年に対して、学内と協力し、働きかける。

②財政委員会

- 1) 前年に引き続きガイダンスにて学生会員へ会費の納入をお願いする。
- 平成24年3月29日(2年生、3年生、4年生)4月5日(1年生)
- 2) 同窓会として会費の納入と共に、在校生にプライバシーポリシーによる
学生の名簿を充実する取り組みをする。
- 3) 会員への年会費納入案内を発送する。
- 4) 学年会員・保護者様へ会費納入案内を発送する。
- 5) 卒業生(23年度)へ会費納入案内を発送する。
- 6) 会費納入会員へ礼状ハガキを発送する。
- 7) 財政委員会を年2回程度、開催する。

③事業・経済交流委員会

[事業]

- ・見学会等の開催
- 未定 特に適当な現場が無ければ、どこかの工場見学を行う等検討する
- ・城球会ゴルフ大会へ補助金支給 10,000円

[経済交流]

- ・平成24年1月 18回新春情報交換会
拡大版とする(65・50周年記念)

④会報・名簿・IT委員会

- 1) 建築同窓会会報(141号-A4版)を8,500部発行。
- 2) 新入会員・学生会員に配布。会員に郵送。
- 3) 保護者に配布。
- 4) 名簿の追加、訂正。
- 5) ホームページの修正。

平成24年度予算

	項目	予算額	備考
収入の部	学生会員会費	1,000,000	学生会員会費:¥10,000×100名
	事業収入	1,400,000	新春交換会
	理工同窓会援助金及び学生会員援助金	293,600	
	建築同窓会年会費	1,200,000	¥3,000×300名、永年会費¥30,000×10名
	寄付金	200,000	
	利子及び雑収入	700	
	周年事業積立金	1,000,000	
	合計	5,094,300	

	項目	予算額	予算内訳
支出の部	総務委員会	540,000	会議費 160,000 慶弔費 100,000 学科支援費 150,000 運営費 130,000
	財政委員会	120,000	郵送費 90,000 印刷費 15,000 運営費 15,000
	事業、経済交流委員会	1,420,000	見学等事業運営費 20,000 経済交流運営費 1,400,000
	会報、名簿、IT委員会	1,620,000	会報印刷費 950,000 会報郵送費 590,000 名簿調査作成費 50,000 ホームページ作成費 20,000 運営費 10,000
	組織委員会	250,000	支部援助・設立準備金 120,000 旅費 20,000 運営費 110,000
	周年事業積立金	1,000,000	
	予備費	144,300	
	合計	5,094,300	5,094,300

財産の部	平成24年度期末財産(平成24年4月1日)前年度繰越金	
	周年事業積立金	1,000,000
	活動準備金	3,643,753
		4,643,753

※建築学科65周年、建築同窓会50周年事業は、周年事業積立金を基金として別途特別予算にて企画・執行する。

平成25年 建築同窓会総会のご案内

平成25年度の建築同窓会の総会を下記により開催いたします。多くの同窓生のご参加をお待ちしております。

●と き 平成 25 年 6 月 16 日(日)

●ところ 名城大学 天白キャンパス内

- 9:30～建築同窓会総会 共通講義棟南館S504
- 10:30～理工同窓会総会 共通講義棟南館S201
- 11:30～講演会 共通講義棟南館S201
- 13:00～懇親会 タワー75 15階レセプションホール

詳細につきましては、下記の理工同窓会ホームページにおいてもごらんになれます。

理工ホームページmeijyo-rikou-dousoukai.jp/

第19回 新春情報交換会開催のご案内

第19回新春情報交換会を開催いたします。多くの同窓生のご参加をお待ちしております。

●と き 平成 26 年 1 月 17 日(金)

●ところ アイリス愛知 2 階 コスモスの間

第18回新春情報交換会も平成25年1月18日に盛大に開催することができました。会員各位のご協力に感謝いたします。第19回も上記のとおり、開催を予定しておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

名城大学建築同窓会 経済交流委員会

名城大学建築同窓会会則

第1章 総 則

- (名称)
第1条 本会は名城大学建築同窓会と称する。
- (事務所)
第2条 本会の事務所は名城大学理工学部建築学科内に置く。
- (支部)
第3条 1. 本会は役員会の承認を得て原則として地域単位とする支部を設置することができる。
2. 支部細則は必要に応じ役員会の議決を経て設けることができる。
- (目的)
第4条 本会は会員相互の親睦を図ると共に地域社会への貢献、文化の振興を図り名城大学及び名城大学建築学科の隆盛発展に寄与することを目的とする。
- (事業)
第5条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 会員名簿の発行
2. 会報の発行
3. 懇親会、見学会、講演会及び研究会等の開催。
4. 学生会員に対する援助
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第2章 会 員

- (組織)
第6条 本会は会員、特別会員、名誉会員を以て組織する。
- (会員の資格)
第7条 本会会員となる資格は次の各項の定めるところによる。
1. 会 員 (1) 名古屋専門学校応用物理建築分科卒業生。
(2) 名城大学理工学部建設工学科建築分科卒業生。
(3) 名城大学理工学部建築学科卒業生。
(4) 名城大学大学院工学研究科建築学専攻修了生。
(5) 名城大学大学院理工学研究科建築学専攻修了生。
(6) 前(1)～(5)項に籍を置く者で役員会で承認した者は会員に準ずる。
2. 名誉会員 本会に功勞のあるもので総会の承認するもの。
3. 学生会員 前1項の(3)、(4)在籍者。
4. 特別会員 名城大学理工学部建築学科の教職員。
5. 賛助会員 個人または団体で本会の事業を賛助するもので評議員会の承認を得たもの。
- (会費)
第8条 1. 年会費は3,000円とする。納入した会費は返却しない。
2. 60才以上の会員が永年会費30,000円を納入した場合は、以降の年会費を免除する。
3. 学生会員は、卒業後5年迄の会費10,000円を納入する。

第3章 総 会

- (総会に召集)
第9条 1. 通常総会は毎年 1 回事業年度終了後 3ヵ月以内に会長が召集する。
2. 臨時総会は評議員会または役員会で必要と認めたとき会長が召集する。
- (総会の通知)
第10条 総会の召集はその 2 週間前までに日時・場所を示した文書、又は校友会会報をもって会員及び名誉会員に通知しなければならない。
- (総会の議決事項)
第11条 総会では次の事項を議決する。
1. 事業報告、収支予算ならびに財産目録の承認に関する事項。
2. 事業計画及び予算に関する事項。
3. 重要な財産の取得、処分に関する事項。
4. 評議員会、役員会で必要と認めた事項。
5. 評議員会における選出役員を承認する事項。
- (総会の議決)
第12条 1. 総会の議事は出席会員の過半数の同意で成立する。
2. 議事の議決同意が可否同数の時は議長が決める。
3. 総会の議長は出席会員の中から選任する。
- (議事録)
第13条 1. 議長は総会の議事について議事録を作らなければならない。
2. 議長は議事録署名人名出席会員の中から選任する。

第4章 役員及び会議

- (役員)
第14条 1. 本会には次の役員を置く。
(1) 名誉会長 1 名 (7) 常任幹事 若干名
(2) 会 長 1 名 (8) 委員長 専門委員会
(3) 副 会 長 6 名以内 (9) 会 計 1 名(補佐1名)
(4) 監 事 2 名
(5) 支 部 長 各支部1名
(6) 学内幹事 若干名
2. 本会には相談役及び参与を置くことができる。
相談役は役員会に諮って会長が推薦する。
参与は本会の役員であった者の中から会長が推薦する。
相談役、参与は本会の諮問に応ずる。
- (役員の選出)
第15条 1. 会長、副会長、会計、監事は評議員会の推薦により選出する。
2. 名誉会長は建築学科長がこれにあたる。
3. 支部長は支部を構成する正会員の中から選出する。
4. 学内幹事は学内の会員及び特別会員の中から互選により選出する。
5. 常任幹事は会長の推薦により会員の中から選出する。
- (役員の職務)
第16条 1. 会長は本会を代表し会務を総理し評議員会役員会等の議長となる。
2. 副会長は会長を補佐し会長に事故ある時はその職務を代理する。
3. 支部長は支部を代表し支部の会務を掌理する。
4. 学内幹事は学科内の意見を集約し会との疎通を図る。
5. 常任幹事は会長の補佐として各事業を援助する。
6. 委員長は各専門委員会を代表し、委員会の会務を掌理する。
7. 会計は本会の会計事務を行う。

8. 監事は年1回以上本会の事業及び会計監査を行いその結果を総会に報告する。
- (役員の任期)
第17条 1. 役員の任期は2年とする。
2. 補欠による役員の任期は前任者の残任期間とする。
3. 役員は再任を妨げない。
4. 役員は任期中に退任しようとするときは評議員会の承認を必要とする。

- (役員会)
第18条 1. 役員会は本会の運営を円滑にするための執行機関である。
2. 役員会は名誉会長、会長、副会長、監事、各支部長、常任幹事、学内幹事、各委員長、会計、会計補佐によって構成する。尚 相談役、参与については会長が必要に応じ出席を求める。
3. 役員会は役員の過半数の出席をもって会議が成立し、出席者の過半数の同意がなければ議決することができない。尚出席出来ない時は委任状を議長宛に提出し、議決権を行使することが出来る。

- (専門委員会)
第19条 1. 専門委員会は第4条の目的と第 5 条の事業を円滑に達成するために評議員及び会員の中から若干名を選出し、これを構成する。
2. 専門委員会は次による。
(1) 総務委員会 (5) 組織委員会
(2) 財政委員会 (6) その他必要となる委員会
(3) 事業・経済交流委員会
(4) 会報・名簿・IT委員会

第5章 評議員及び評議員会

- (評議員)
第20条 1. 本会は会員の卒業年度の代表として評議員を選出する。
2. 評議員は評議員の推薦による。又は各期会員の中から選出する。
- (評議員の任期)
第21条 1. 評議員の任期は2年とし、再任を妨げない。
2. 評議員が欠けた場合の補充評議員の任期は前任者の残任期間とする。
- (評議員会)
第22条 1. 評議員会は役員及び各期評議員で構成し会長が必要と認めた場合に会長がこれを招集する。
- (評議員会の開催)
第23条 1. 評議員会は定例評議員会と臨時評議員会とする。
2. 定例評議員会は、毎年総会の1箇月前とする。
3. 臨時評議員会は役員会で必要と認めたとき、または評議員の3分の1以上の要請があったときに開催する。
4. 評議員会の招集は議案を付して10日前までに通知しなければならない。
- (評議員の議決)
第24条 1. 評議員会においての議事の議決は総会に準ずる。
- (評議員の審議事項)
第25条 1. 評議員会の審議事項は、次の各号に定めるところによる。
2. 総会の付議事項に関すること。
3. 役員選出に関すること。
4. その他必要と認める重要事項。

第6章 資産及び会計

- (基本資産)
第26条 基本資産は会費、寄付金及び助成金でこれを構成する。
- (経費の支弁)
第27条 本会の経費は基本資産ならびに事業から生ずる収入でこれを支弁する。
(事業年度)
第28条 本会の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月31日に終わる。
(特別会計)
第29条 本会に特別会計を設けることができる。

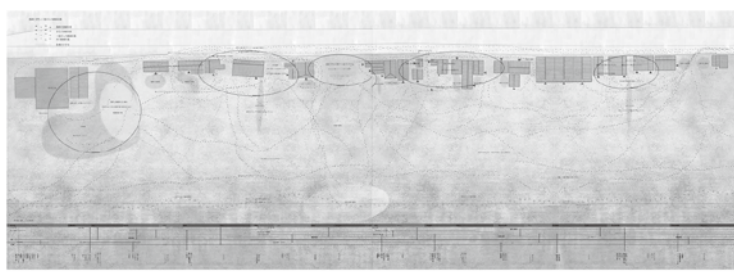
第7章 雑 則

- (会則変更)
第30条 本会則は総会の議決によって変更することができる。
第31条 本会は会務運営及び第 5 条の事業遂行のために必要な委員会及び部会を設けることができる。

附 則

- (1) 本会則は、昭和38年9月22日より施行する。
(2) 昭和45年 9月14日会則一部改正及び訂正施行する。
(3) 昭和51年 8月 7日会則一部改正施行する。
(4) 昭和57年 9月12日会則一部改正及び訂正施行する。
(5) 昭和60年 9月 8日会則一部改正及び訂正施行する。
(6) 平成元年 9月17日会則一部改正及び訂正施行する。
(7) 平成 5年 9月18日会則一部改正及び訂正施行する。
(8) 平成 6年 9月25日会則一部改正及び訂正施行する。
(9) 平成 7年 9月24日会則一部改正施行する。
(10) 平成 8年 9月21日会則一部改正及び訂正施行する。
(11) 平成10年 9月20日会則一部改正及び訂正施行する。
(12) 平成12年10月 1日会則一部改正及び訂正施行する。
(13) 平成13年 9月30日会則一部改正及び訂正施行する。
(14) 平成18年 9月10日会則一部改正及び訂正施行する。
(15) 平成19年 9月30日会則一部訂正及び訂正施行する。
(16) 平成20年 9月28日会則一部訂正及び訂正施行する。
(17) 平成23年 6月19日会則一部訂正及び訂正施行する。

表紙・裏表紙解説



表紙:近代建築掲載作品(六谷 敏希)

私は、海の目の前にある中学校に通っていた。しかし、海との交流やつながりがない。もっと海との機会をつくるために海の学校を提案する。今回提案する海の“学校”は近くの学生が課外授業を行い漁を学び、自分の街を知る機会を作るだけではない。全ての人においての“学校”である。小学校、中学校のような思いついた場所になってほしい。

土地は三重県鈴鹿市の鼓ヶ浦海岸。北部には漁師のための倉庫が立ち並びそのすきまを利用する。一般の人や学生は波際を歩き、漁師は堤防から自分の倉庫へと行っている。現在動線が交わることのない状況である。すきまに機能を持ってくることで、漁師との直接的交流や仕事の雰囲気を感じ少しでも漁師との生活の場を近づけることができるよう動線計画を行った。

動線計画のほかに、年間行事やイベントと海を合わせることで夏場の利用が多い海から年中人が集まれるよう計画を行った。

人が集まり、愛着のある場所にするために簡単に増築できるようにした。長さ910mm、50mm×50mmの角材を積み上げて空間をつくる。小学校、中学校を卒業するとき、この街を離れるとき1段階み上げて行き自分のいた証を刻んで行く。新たに積まれた部分は次世代に利用されどんどん変化していく。どのように変化して行くかはわからないが、この場所にしかないものになってほしい。



裏表紙:日本建築学会巡回作品(平松 未麗)



裏表紙:愛知建築士会提出作品(川島 正大)

※題字 故 中田 武教授

平成23、24年度役員

名誉会長 武藤 厚 (建築学科長)	東三河支部長 山本 利州 (昭和37年卒)	組織委員長 鈴木 善徳 (昭和43年卒)
会長 小木曾 森司 (昭和48年卒)	尾張東支部長 駒 秀夫 (昭和45年卒)	総務副委員長 大橋 裕一 (昭和56年卒)
副会長 石川 豊 (昭和47年卒)	常任幹事 富板 邦夫 (昭和38年卒)	財政副委員長 近藤 清之 (昭和52年卒)
副会長 山田 健三 (昭和46年卒)	常任幹事 河合 秀一 (昭和48年卒)	事業・経済交流委員長 安藤 勉 (昭和54年卒)
副会長 荒川 建昭 (昭和41年卒)	常任幹事 下地 康夫 (昭和47年卒)	会報・名簿・IT副委員長 児玉 道子 (平成22年院卒)
副会長 安井 眞 (昭和48年卒)	常任幹事 岡野 廣海 (昭和50年卒)	愛城会幹事 林 靖郎 (昭和56年卒)
副会長 安藤 洋 (昭和41年卒)	学内幹事 谷田 真 (平成7年卒)	城友会会長 丸澤 良彦 (昭和52年卒)
監事 佐藤 正義 (昭和35年卒)	会計 大河内 岸子 (昭和51年卒)	相談役 加藤 哲也 (昭和38年卒)
監事 亀之内 親雄 (昭和42年卒)	会計補佐 佐々木 和穂 (昭和56年卒)	相談役 廣瀬 敏郎 (昭和44年卒)
岐阜県支部長 水谷 武 (昭和34年卒)	総務委員長 山中 弘 (昭和53年卒)	相談役 岩崎 征一 (昭和41年卒)
名古屋支部長 大橋 安太郎 (昭和38年卒)	財政委員長 磯野 信秀 (昭和47年卒)	参与 秦 和久 (昭和30年卒)
尾張南支部長 松本 実 (平成4年卒)	事業・経済交流委員長 荒木 衛 (昭和58年卒)	参与 坂崎 日支夫 (昭和35年卒)
西三河支部長 深谷 光秀 (昭和53年卒)	会報・名簿・IT委員長 安井 眞 (昭和48年卒)	参与 鈴木 寛 (昭和34年卒)

縮小した集落を束ねる ～水辺を意識した暮らしのカタチ～ 平松 未麗



概要

縮小しながらも、本来の豊かな自然環境と、人と人とのささやかなつながりが残る静かな集落地。そんなまちの姿や風景を無くしてしまうのは悲しいことである。その場に建物を築いて人を呼び込んだり住まわせたりすることには強制的なイメージがあった。縮小する今、大切なのは「ものづくり」ではなく「人がつながる仕掛け」である。そこで縮小を止めようとするのではなく縮小を受け入れ、まちをゆるやかにつないでいくような優しい橋を提案する。橋という目的化しない空間の隠れた自然の豊かさを操作することで様々な

可能性が生まれると考えた。

今回は計画地の隣に小学校と中学校があり、こどもたちが主体的に橋に関わることを考えた。



学校の枠組で行われる園芸活動やこどもが遊具であそぶ姿を橋へ展開していくことで、こどもたちの学校での活動や様子が地域へと広がる。こどもは橋に対して花を育てるように愛着をもち、自身のまちがもっと好きになるきっかけを生む。

Q 制作日数は？

構想4ヶ月 制作1ヶ月

Q かかった費用は？

スタディ含め3万円程度

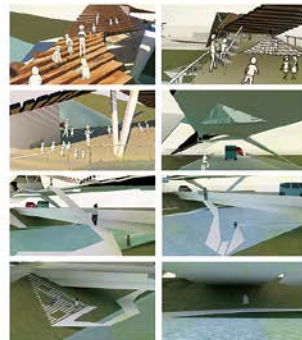


Q この作品をつくったきっかけは？

まちづくりに興味があり、自分が育ったまちのマスタープランを拝見する中で故郷の景観を維持しながら浮かび上がる問題を建築的に解決できる手法を考えてみたかった。

Q ここに一番こだわったという所を教えてください。

橋を設計するにあたって意匠的に景観を損なうものではないけが、まちのシンボリックな存在にならなければいけないことを意識した。またこどもが関わることを主としているので、川に近づくためのアプローチに工夫しながら常にどんな空間が楽しいかを考えて制作した。



Q 制作中つまかったことは？

取り組んだ事の無い分野のものを計画したことと複雑な形状を成り立たせること。生活面では食事、睡眠などが満足にできない生活に精神が参りそうだった。しかし、製図室で仲間と切磋琢磨しながら制作できた期間は財産となった。



製図室にて制作終了後

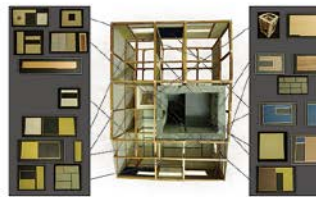
Q 今後について教えてください

これまで培ったことを社会人になっても生かし、枠に定まらず建築を通して新しいことに挑戦しつづけていきたい。

民家再考 川島 正大

概要

民家という建築を再び考える。住居は「長く住めること」と「変化すること」ができるだけで価値が生まれるのではないか。実際に180年もの間存在しつづける民家を対象とし、リノベーションではなくリファインする。民家の価値の再編成を目的とした住み継がれる住居の提案である。現代と過去の住居の工法の違いに目をつけ、木造の柱梁からなる日本の伝統的な構造に補強のためのコンクリートを入れ込み住み継がれるための構造を担保する。設計の際は住み継がれていく架空のストーリーを設定し家族形態や仕事の変化によってプランを変えていくことで純粋な柱梁構造がいかにフレキシブルな空間なのかを表現するとともに、過去に住んでいた住人の痕跡を残していくことで住居としての時代の流れを継ぎはぎのような空間に転用していった。民家とはこのようにして住人の変化や社会の変化によってできていくものではないだろうか。



Q 制作日数は？

構想4ヶ月、制作1ヶ月

Q かかった費用は？

模型材料費(スタディ含め)のみで約3.5万円。その他食費や手伝ってくれた子の食事代など含めると8万円くらいは使っていると思います。



Q この作品を作ったきっかけは？

東北の震災だと思っています。現地に行った時に日本の住まいとはこれからどうあるべきかを考えるようになりました。その後震災関連の建築展覧会など見て卒業設計で民家について考えようと徐々に思うようになりました。また、実際に存在する民家に出会えたことも大きなきっかけになったと思います。



Q ここに一番こだわったところを教えてください。

提案としては地味になることがわかっていたのでひたすら模型にこだわりました。模型では基礎や屋根瓦も一つ一つ作り上げたのでとても愛着のある作品に仕上がりました。

Q 制作中辛かった事は？

自分と向き合い作品を作り上げるといふには必ず辛さが伴うと思います。それをどのように乗り越えるか。僕は美味しくご飯を食べることと朝日を浴びることで辛さを和らげてました。



Q 今後について教えてください。

来年度から左官職人の道に進みます。自らの手で作ることでしか分からない事があると思ったからです。目標は建築分野に限らず自分が納得できる仕事をする事です。